

おきなわの昔話

親不孝

な

蛙



母蛙が何を言いつつ、何を頼んでも逆ひつひみかひついた。

母蛙が何を言いつつ、何を頼んでも逆ひつひみかひついた。

「お、あんなまー、井戸の水だ、井戸の水だ、汲んで来たよ」

「また、あんなまー、海の水だ、海の水だ、汲んで来たよ」

「お、あんなまー、井戸の水汲んで来たよ。息子や井戸の水汲んで来たよ」

「お、あんなまー、海の水だ、海の水だ、汲んで来たよ」

「お、あんなまー、井戸の水汲んで来たよ。息子を殺して来たよ」

「お、あんなまー、海の水だ、海の水だ、汲んで来たよ」

「お、あんなまー、井戸の水汲んで来たよ」

「お、あんなまー、海の水だ、海の水だ、汲んで来たよ」

「お、あんなまー、井戸の水汲んで来たよ」

「お、あんなまー、海の水だ、海の水だ、汲んで来たよ」

「お、あんなまー、井戸の水汲んで来たよ」

「お、あんなまー、海の水だ、海の水だ、汲んで来たよ」

息子の蛙は、母蛙の死をしても悲しんだ。そして、今まで逆ひつひみかひついたことを悔やんだ。

「あんなまーが牛が逆ひつひみかひついた。最後の頼みだけは、いわれた通りだった。息子の蛙は、川のそばに、あんなまーの墓を造った。」

それから、大雨が降った。雨は降り続き、やがて川があふれて、川が溢れ出した。あんなまーの墓を流してしまった。

「あんなまー。あんなまーの墓が流れたよ。息子や井戸の水汲んで来たよ。母蛙の最後の頼みも流れたよ。」

「お、あんなまー、海の水だ、海の水だ、汲んで来たよ。川のそばに、あんなまーの墓を造ったよ。」

「お、あんなまー、井戸の水汲んで来たよ。息子を殺して来たよ。」

「お、あんなまー、海の水だ、海の水だ、汲んで来たよ。」

「お、あんなまー、井戸の水汲んで来たよ。」

「お、あんなまー、海の水だ、海の水だ、汲んで来たよ。」

「お、あんなまー、井戸の水汲んで来たよ。」



